

(別紙様式1-2)

道徳教育地域支援委託事業実施計画書（令和8年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 高松市立牟礼中学校
(2) 所在地 香川県高松市牟礼町牟礼46番地2
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (令和8年4月1日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援 学級	児童生徒数計	教員
4学級 119名	4学級 129名	4学級 121名	4学級 18名	387名	28名

2 研究主題等

- (1) 研究主題 なかまとともに豊かな心を育む道徳教育 ～自己を見つめ、互いに高めあう授業の工夫～
(2) 研究主題設定の理由

本校では令和6年度より道徳教育を軸にした教育活動を行っている。それ以前の7年間は人権・同和教育を基盤とした教育活動を行ってきた。そこで、人権・同和教育で培われた互いに認め合う集団の中で、他者との対話を通して自分と向き合い、自分のよさに気づき、互いに高め合える道徳の授業を目指したいと考えた。令和7年度までは効果的に対話を取り入れた学習活動の工夫や、題材を自分事として捉えて考えを深められるような発問について研究した。令和8年度もさらに対話を軸とした学習活動を定着させたい。

また、本校は地域との結びつきが強く、地域の行事やボランティアに参加する生徒も多い。総合的な学習の時間に行っている「ふるさと学習」など、他の教育活動と連携し、改めて地域社会の一員として郷土について考える機会を設け、郷土を愛する心を育てたいと考えた。令和6年度は無理なく継続して行える地域教材について研究を行った。令和7年度は、教科書の教材を活用した地域教材を作成・実践した。令和8年度はその研究をさらに定着・発展させ、授業実践を行う。

(3) 研究内容及び方法

① 対話し、議論する場の設定と発問の工夫

人権学習で実施している「ほっとトーク」や「クラスミーティング」の活動を道徳の授業にも活用し、自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いたりすることで教材について考えを深める学習活動を定着させる。そうすることで、課題を自分事として捉え学んだことを実践へとつなげられるようにする。効果的な対話の場の設定と少ない言葉で思考を促す発問について継続して研究を行う。

② 地域の課題に密着した教材の工夫

地域教材について持続可能な研究ができるよう、道徳の教科書の教材と総合的な学習の時間の「ふるさと学習」を基盤とした地域教材を作成する。道徳の授業を総合的な学習の時間と関連付けながら学習を展開できるようにし、学んだことが実践につながるようにしていきたい。

3 成果の評価方法（検証方法）

- ・生徒の意識の変容を見取るために定期的に道徳の授業についてのアンケート調査を行う。
- ・大学教授や市教育委員会の指導主事などの外部講師を招聘し、評価していただく。
- ・令和8年度 四国中学校道徳教育研究大会で実践発表を行い、評価していただく。

4 研究成果の普及方法

- ・令和8年度 四国中学校道徳教育研究大会で実践発表を行う。
- ・香川の教育づくり発表会で報告する。